



## みんな笑顔であいさつし 一人ひとり思いあえる中春っ子

今年度の卒業証書授与式は、実に4年ぶりに従来の形の式を挙行することができました。来賓の方のご臨席を賜り、式歌を合唱することもできました。昨年度もまだ、時間の短縮を余儀なくされ、証書を渡すときはマスクをしていたように思います。授与式は、6年間という長きにわたる小学校課程を修了する大切な儀式です。時短などの制限を気にすることなく挙行することができるようになったことに、とても嬉しく感じました。

式の中で、卒業生代表のお別れの言葉の中にコロナ禍についてふれた次の言葉がありました。

・・・そんな中、どうにか楽しもうと私たちは努力しました。その「努力」は報われないことだってありました。けれど、今日までの日々を全力で歩んできました。この日々を私は胸を張ってこのように言います。「これが奇跡だ」と。この日々は素敵です。幸せだと思えた日もボロボロになった日も。全てが「奇跡」で美しい日々でした。コロナウイルスが流行しなければ、過ごせなかった日々。この日々を十五人の仲間とともに過ごせて本当に良かったです。

今年の6年生たちは3年生から5年生までの間、行動制限を強いられ、やりたいと思ったことも満足にできなかった3年間あまりを過ごしてきました。学校は子どもたちの意欲や主体性を伸ばすことが使命であるはずなのに、その役割とは反対にやる気を削ぐような場面もあったことと思うと、申し訳ない気持ちになります。ですから、全てが「奇跡」で美しい日々でしたという言葉に、気持ちが救われたような思いがしました。できないことを数えるのではなく、限られた条件の中での最善を尽くそうとしたその姿勢には教えられました。

さて、本日をもって令和5年度が修了します。次の6つの言葉は、一年間学級で掲げ、目指してきた学級の目標です。

“きらりん” “にっこり” “ピース” “チャレンジ” “上を向いて歩こう” “百花繚乱”

一年間という大きな節目を終えようとしている今、どの学級も言葉があらわす学級へと成長したように思います。学級がそのように育った背景には、学期の節目や行事への取り組みなど、機会あるごとに目標が示すようになるためにはどうしたらいいか、達成できたかどうか、どれだけ近づいているかなどを振り返り意識し、目標に向き合ってきたからだと思います。

そしてまた、子どもたち一人ひとりも大きく成長できた一年間だったように感じています。勉強や運動、そして友達とのかかわりの中で、なりたい自分へと近づくために努力を続けた子どもたち。とくに3学期は、新しいステージに向けての準備期間として、進級・進学を意識しつつ、今年度のまとめに取り組んできました。子どもたちが自信をもって春からの生活を迎えられるよう、ご家庭でもこの一年を振り返り、子どもたちの成長やがんばりをご家族でお話しいただき、**がっつり褒めて**あげていただけたら幸いです。

今年度も、大きな成果と歩みとともに無事修了を迎えることができました。これも本校教育活動に対する保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご支援があったからこそこのことと存じます。

職員一同、心より感謝申し上げます。

時折ちらつくなごり雪。それを融かす陽射しのまぶしさとあたたかさに春の訪れを感じさせてくれます。どうぞお体にご留意いただければと存じます。 令和6年度もよろしくお願ひ致します。